

ともに未来へ

あなたも大私教へ



だれもがみな

そこにテーブルがあつて、
自分の場所を探し疲れたところを
ひとはそっと休ませる。

うえた

本を読むことも、絵を描くことも、
うたを歌うことも、

しかし、ときに激しく泣くことも、
そしてただひたすら、黙っていることさえも、
自由な場所です。

こころはうしなわれた彩りを
とりもどしていく。

だれも、自分であることをとがめられず、
それ以上であることを

もとめられることもない。

ひとつのかなしみに寄り添えないことを
だれも指さしはしないし、

小さな石を固く握りしめたその手を
無理やり開かせようとする者もない。

だれかのための自分であることを

たとえ信じられなくても、

ひとりではない自分を感じることができれば
それでいいのだと。

空をわたる光を天板に映して
友と

やがてそう呼びあう者たちのために

テーブルが

明るい陽ざしの中に
置かれている。



あなたも大私教へ

いま学校では、毎日目の回るような、昼食もとれない忙しさの中で、心もからだもクタクタです。着任した時の熱い思いや仕事への誇りが、吹き飛ばされそうな現実と私たちは向き合っています。

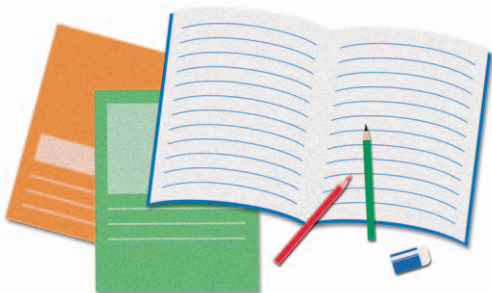
また、生徒数が減り、助成金も削られて、学園の財政が厳しくなる中、賃金や一時金が削られています。専任教職員の不補充、長時間の勤務、管理の強化などなど、私学の教育・労働条件はますます悪くなっています。

私学の職場はこんなに大変ですが、教育という仕事に今もっとも求められているのは「共同」ではないでしょうか。個々の考え方は違っても、子どもたち、生徒たちの成長、発達への願いを共有し、その願いを土台に教職員の「共同」、父母との「共同」で学校教育は成り立っています。

労働条件、教育条件をよりよくする教職員組合の取り組みは、すべての生徒、教職員、父母の利益につながると確信しています。

そしてこの大切な「共同」を基礎に、ともに話し合い、考え合い、学び合いながら運動をすすめていきたいと考えています。

私学の明るい未来をつくるため、あなたも大私教へ加入しませんか。大私教は一人でも加入できる組合です。





大私教って？

歴史は46年

大私教は1960年5月に結成されました。当時の私学は、公立に比べて、非常に悪い労働条件で、すぐに公立へかわっていく人も多く、組合を結成すれば解雇されることもしばしばでした。

そんな中で、青年教職員が中心となって、解雇された人たちとともに大私教をつくったのです。教育労働条件の改善と共に、大阪の地に、私学助成の地平を開いてきました。

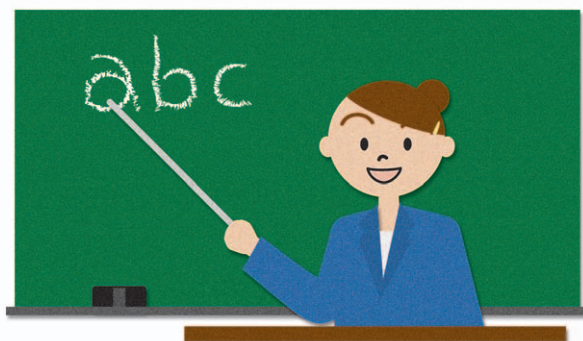
現在、大阪私学の幼稚園、専門学校、小中高校から大学まで加盟しています。特に高校では府下の高校の2／3が大私教に加盟しています。

大私教はこんな活動をしています



大私教は結成以来、「不当な解雇は許さない」「よりよい教育・労働条件を」「私学助成の拡充で学費負担の軽減を」と、労働組合として、教職員のくらしと権利をまもりながら、よりよい教育条件で安心と信頼の私学づくり、学校づくりをめざし、教職員、父母と手を携えて活動しています。

さらに、さまざまな困難をはね返しなが、教職員・父母・生徒の願いや要求にもとづいて、春闘、私学助成運動、教育研究活動など、学園間の枠を越えて取り組んでいます。





大私教はこんな活動もしています

㊦ 教育研究活動・・気軽に学べる場を・・

クラスづくりがうまくいかない、もっと授業を充実させたい、子どもの心がわからない…。教師の悩みはつきません。

大私教は、夏、冬、春に 教育研究集会（略して「教研」）を行い、学校の枠を超えていろいろな教育問題を交流し、考え、学んできました。近年は、誰でも参加できる教研実行委員会を開き、

「みんなでつくるみんなの教研」「明日から頑張ろうと思える教研に」と、準備をすすめ、気軽に楽しい教研づくりが行われています。

自由な教研活動は、教職員組合ならではの活動です。

仲間

授業がうまくいった

この喜びをまっさきに

だれに伝えよう

母に電話で知らせた

ふーん わからないけど

よかったね と励ましてくれた

やはり 教研でヒントを

いただいたK先生に電話を

しなければ・・・

K先生はもちろん喜んでくれた

しかし 次はこうしてああして

となかなかきびしい

学校を越えてもつながる仲間

組合もいいもんだと思った

㊦ 公費助成運動・・学費の心配せずに教育が受けられるように・・

「こんなに悲しい思いで受け取った退学届けはなかった」。学費が払えず学校を退学していった生徒の担任の言葉です。

学費の滞納、修学旅行へ行けない生徒、卒業を目の前に学費が払えないため卒業式に出席できない生徒たち。不況、経済的な格差の広がり、私学の高い学費は、生徒たちの心を傷つけ、教育を受ける権利を脅かしています。

憲法・教育基本法は教育を受ける権利を保障し、教育において経済的に差別されないことをうたっています。私学助成は私たちの権利であり、国の義務なのです。

大私教は、子どもたちが学費の心配をせず、教育が受けられるよう、私学助成を増やし、充実させる公費助成運動に父母と共に取り組んでいます。

㊦ 平和運動・・NO WAR・・

いま、憲法・教育基本法が、変えられようとしています。私たちは教え子を戦場に送りたくはありません。教育の場で、子どもたちに愛国心を強制して、戦争をする国の人づくりに手をかけたくはありません。

平和でこそ、子どもたちの可能性を限りなく伸ばすことができます。子どもたちに平和の大切さを教えていくとともに、教職員として、そして一人の人間として平和の取り組みを大事にしていきたいと思います。

㊦ 講師部・・・今こそ均等待遇を・・・

多くの私学では、専任とほぼ同じ仕事をしているのに、待遇は同じでない1年契約の常勤講師がたくさん採用されています。同時に、非常勤講師も以前から劣悪な労働条件の下におかれています。

常勤講師も非常勤講師も教壇に立てば同じ教師です。大私教は、期限付講師の雇用をまもり、労働条件をよりよくする活動にとりこんでいます。

講師部では、教育労働条件に関するアンケート活動や「講師のつどい」を行っています。この「つどい」では、講師（非常勤、常勤）の皆さんが抱える様々な問題（授業での悩み、不当な雇い止め、私学共済・雇用保険の加入問題、低い賃金等々）をみんなで共有できればと思っています。

㊦ 事務職員部・・・全国の「仲間とつなぐ」とりくみ・・・

学校職員として勤務していて、「これでエエんやろか？」って思うことはありませんか？

私たち事務職員部では、大私教や全国の教研活動を通じて、さまざまな研修・学習や情報交換・交流を積極的に行いながら、大阪だけでなく近畿、さらには全国や公立の事務・現業職員と「仲間をつなぐ」取り組みを行っています。

一人でも多くの学校職員の仲間とともに、「これがエエん」という答えを一緒に探し出しましょう。



㊦ 養護教職員部・・・子どもの実態つかんで保健室から発信を・・・

養護教職員は、とても大切な役割を果たしています。

公立学校では、専任養護教諭の複数配置など教育労働条件が改善されていますが、私学の現状はまだ不十分です。

そんな中でも、養護教職員部は、できるだけ幅広くつながりあい、日々の仕事の情報交換しながら、孤独にならずに、また職場で元気に働けるようにと活動しています。

競争社会の中で大人にも子どもにも様々な歪みが出ている現代だからこそ、教室で見えにくい子どもの実態をしっかりつかみ、保健室から発信することが大事だと確信しています。養護教職員のみなさん、いっしょに手をつなぎましょう。



㊦ 専門学校部・・・今こそ、仲間とともに・・・

専門学校には専門課程・高等課程・一般課程があります。各課程で対象生徒の年齢が違ったり、教育内容もさまざまです。しかし専門課程は現在では4年生大学に次ぐ高等教育機関として注目をあびています。にもかかわらず、教育条件や労働条件は(学校教育法第1条に定める)高校に較べて大きな差があります。

専門学校部は、約30年の歴史があります。しかし圧倒的に組合のない学校が多く、組合の存在すら全く知らない人が多いと思います。こんな時こそ組合の存在や役割を広めることで明るく楽しい職場作りを目指しましょう。

㊦ 幼稚園部・・・子どもたちの発達の保障を・・・

幼稚園の現場では長く働き続けるのは困難な状況ですが、私たちは結婚しても子どもができて働き続けられる職場作りを、皆で知恵と力を出し合って頑張っています。

1年契約やパートの先生が増えています。幼児教育には保育の積み重ねが大切です。保育交流や研究会に参加したり、子どもたちの発達を保障していく教育づくりをめざしています。多くの仲間とも公立の先生とも交流しています。



㊦ 女性部・・・誰もがいきいきと働けるように・・・

あなたに小森香子さんの詩をおくります。

もし あなたが 本気で愛するなら
おなかを痛めて生み育てた わが子の
未来を 本気で 心配するのなら
いま わたしたちの するべきことは一つ
「教え子を再び戦場に送るな」

「愛するなら いま」より抜粋

女性も男性も生き生きと働きたい…
これが私たちの願いです。

人間らしく自分らしく生きたい…
これが私たちの願いです。

子どもがひとりの人間として尊重され、ゆたかに成長・
発達できる教育を…
これが私たちの大事なしごとです。

いま、それらが崩されようとしています。いままでの運
動で、築いてきた男女平等の思想。その平等への逆流が起
こっています。

いま、憲法が、教育基本法があぶない！
いまを生きる私たちが、何をすればいいのか。一緒に考
えませんか。



私も大私教に入りました

㊦ 働く自分をたいせつにしたい



*英真学園 小林 千弘さん

学校現場で働く教職員のだれもが、学校の存続を願い、経営難の現状や生徒減の昨今に憂いや不安を感じていることと思います。また、自分自身の労働実態や、雇用、賃金などについて、内容に差はあれども不満や要求をお持ちでしょう。

いま、一人一人の労働者が視野を広げ、集団的な知恵と力量を発揮して学校現場をどうしていくのか、問われていると思います。私にとっての教職員組合は、自らの視野を押し広げ、教育労働者として成長する場所です。

働く自分を大切にしたいからこそ、組合の仲間に入りました。

㊦ 連帯して未来の教育を創る

*電通大高校 小林 宏充さん



私が組合に魅力を感じたのは、組合に加入している先生たちに、「模範としたい先輩」が数多くおられたからです。教師としての教育力は無論のこと、一人間としても尊敬でき、ああ自分もこんな教師になりたい、こんな人生をおくりたいと思ったのです。

また教育は、同じ職場の教師との連携もさることながら、他校の教師がそれぞれ工夫している日々の実践からも多く学べます。教研に参加すれば、他校の実践に出会え、自分の授業を客観的に見ることができます。それもまた、組合加入の大きな動機でした。

教育とは決して一人の力では成しえません。これからの教育を創るのも、多くの教職員の力が必要です。一人でも多く組合に加入して、教科の枠、あるいは学校の枠を超え、ともに連帯しながら未来の教育を創っていければと思います。

㊦ 毎日が勉強の連続



*秋桜高校 中村 綾さん

ずっと「こんな先生になりたい」と理想の教師像を描いてきました。この春大学を卒業し、教育現場に立つのが初めての私にとって、最初は緊張することや不安になることばかりでした。その度ごとの、まわりの先生の声かけや、励ましが私の励みや自信になり、すぐに秋桜に溶け込むことができ、生徒たちとも楽しく話すことができました。

秋桜での毎日は勉強の連続です。他の先生たちも組合に入って、他の学校の教職員との交流や意見交換を通して自分自身を磨かれていると聞きました。私もぜひ組合に入って、もっともっと自分を成長させていきたいと思っています。



大阪私学教職員組合

〒542-0012 大阪市中央区谷町7丁目1-39-102

TEL 06-6763-3201 FAX 06-6763-3206

<http://daisikyo.pobox.ne.jp>

幼小中高校専門学校部 sigaku-o@rio.odn.ne.jp